
令和6年度第2回 人生の最終段階における医療・ケア検討会議

日時: 令和7年2月12日(水) 18:45～20:30

場所: 高知県立県民文化ホール 1階 第11多目的室

次 第

1 開会

2 議題

- (1) 令和6年度下半期の取り組みについて
 - ・重点取り組み
 - ・その他の取り組み } (資料1)
- (2) 令和7年度の取り組み予定について
 - ・事業計画(案)(資料2)

3 閉会



高知県在宅療養推進課

人生の最終段階における医療・ケア検討会議設置要綱

（目的）

第1条 県民一人ひとりが最期まで自分らしく尊厳をもって生きられるよう、人生の最終段階において提供される医療及びケアについて検討するため「人生の最終段階における医療・ケア検討会議」（以下「会議」という。）を設置する。

（協議事項）

第2条 この会議は、前条の目的を達成するため、次の事項について協議する。

- （1）人生の最終段階において提供される医療及びケアのあり方に関すること。
- （2）ACP（アドバンス・ケア・プランニング）による意思決定の体制整備に関すること。
- （3）ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の普及啓発に関すること。
- （4）その他、目的を達成するために必要な事項。

（組織）

第3条 会議の委員は、人生の最終段階における医療・ケアに携わる医療関係者・介護関係者、学識経験者、関係団体及び住民の代表者等で構成する。

- 2 会議に座長を置き、委員の互選により選出する。
- 3 委員が会議に出席できない場合、代理出席を認める。

（会議）

第4条 この会議は、座長が必要に応じて招集し、座長が議長となる。

- 2 議事は、公開とする。

（事務局）

第5条 検討会議の事務局は、高知県健康政策部在宅療養推進課に置く。

（その他）

第6条 この要綱に定めるもののほか、会議の組織及び運営に関し必要な事項は、座長が委員に諮って定める。

附 則

この要綱は、令和元年6月10日から施行する。

この要綱は、令和3年6月9日から施行する。

人生の最終段階における医療・ケア検討会議 委員名簿

氏 名	所属・役職名	備 考
北村 龍彦 (座長)	一般財団法人日本尊厳死協会四国支部・高知 代表	
阿部 恭宜	公益社団法人高知県薬剤師会 常務理事	
伊与木 増喜	一般社団法人高知県医師会 常任理事	欠席
岩崎 美幸	公益社団法人高知県看護協会 看護師職能理事	
大庭 憲史	高知県介護支援専門員連絡協議会 理事	
北岡 智子	国立大学法人高知大学医学部付属病院 緩和医療科 准教授	
公文 理賀	一般社団法人高知県社会福祉士会	
長瀬 美和	一般住民代表 (高知県連合婦人会 副会長)	
中本 雅彦	高知県医療ソーシャルワーカー協会 会長	
福田 晃代	高知県老人福祉施設協議会 副会長	
堀 洋子	一般住民代表 (高知県医療審議会保健医療計画評価推進部会委員)	
松本 務	あおぞら診療所高知潮江 所長	
森下 幸子	高知県公立大学法人高知県立大学 准教授	
安岡 しずか	公益社団法人高知県訪問看護連絡協議会 会長	欠席
依岡 弘明	一般社団法人高知県歯科医師会 副会長	欠席

※敬称略、座長を除き五十音順

人生会議(ACP) 令和6年度取組

1. 相談員の活用

講師等リストの活用

2. 市町村での啓発活動への支援

住民への普及啓発方法の講座

(ACP 市町村担当者等の情報交換会)

3. 子世代(40、50代)に向けた普及啓発

企業内研修の実施

リーフレット(親子編)の作成検討

4. 無関心期をターゲットにした広報

無関心期に向けた2種類の新リーフレットの活用

5. 医療・介護従事者への支援

職能団体と連携した研修の実施

上半期

下半期(資料1)

人生会議(ACP) 令和7年度取組(案)

1. 相談員の活用

講師等リストの活用

2. 市町村での啓発活動への支援

住民への普及啓発方法の講座

(ACP 市町村担当者等の情報交換会)

3. 子世代(40、50代)に向けた普及啓発

企業内研修の実施

新

リーフレット(親子編)の活用

4. 無関心期をターゲットにした広報

新

啓発リーフレットの見直し

5. 医療・介護従事者への支援

職能団体と連携した研修の実施

(資料2)

人生会議（ACP） 令和 6 年度下半期の取り組み

1. 子世代（40、50 代）に向けた普及啓発

①リーフレット「人生会議（親子編）」の作成検討

目的	両親の老後のことが気になり出す子世代（40～50 代）をターゲットとして、親子で将来の事について話し合うきっかけとなるようなリーフレットを作成し、啓発を図る。
対象	子世代（40～50 代）
作成過程	R6 第 1 回人生の最終段階における医療・ケア検討会議でいただいたご意見を踏まえ修正。12 月に再度メールで確認いただき、最終版を作成。 R7 年度に 5,000 部印刷し、配布・活用予定。

別紙 意見対応一覧表、リーフレット案 （意見、対応については P2 一覧表参照）

「人生会議（親子編）」リーフレットについて
(意見、対応一覧表)

No	意見	対応
1	「問い」は質問されている感じなので「問い」を削除してはどうでしょうか。	「問い」を「テーマ」に変更し、質問している感じをなくすために、「何ですか？」の部分を削除しました。
2	親子で話し合うための3つのポイントは、裏面をチェック！は、同じ面に3つのポイントがあります。裏面のどの部分に誘導するか。→例えば、裏面に親子で話し合うための具体例があります。	「裏面に親子で話し合うための具体例があります。」に修正しました。
3	2身の回りの整理のうち、ペットの世話などをどうするのか、といったことは、→ <u>ペットの世話をどうするのかなどは、</u>	「ペットの世話をどうするのかなど」はに修正しました。
4	治る見込みがない場合や、自分の考えが伝えられなくなった時に望む治療方針と療養の場所を追加してはどうか。	3もしもの時のことに、療養の場所を追加しました。
5	家族の負担にならない程度の治療を受けたいとは、あらゆる負担を想定しての言葉？経済的・身体的・精神的等々と解釈しました。	経済的・身体的・精神的等の負担を想定しています。
6	「問い」1～4は、ACPで聞くとよいと言われる、楽しみ、生きがい、気がかり、これまでの人生において印象深いことに対応していると思います。価値観の共有という点では、支えになっている人やものは何ですかというのあれば良いかと思いました。	テーマ5に「支えになっている人やもの」を追加しました。
7	リーフレット裏面は、リーフレットをおると3もしもの時が切れてしまうため、1健康管理の下に、2身の回りの整理が良いのではないかと思います。	3もしもの時が切れてしまわないように、1健康管理の下に、2身の回りの整理にレイアウトを修正しました。

その他の修正箇所：〈便利アイテム③〉を元気編、退院編リーフレットの紹介から
安芸市作成の看取りのアニメーション動画の紹介に修正

②企業内研修の実施

4月24日に開催された包括協定締結企業への県事業説明会にて、人生会議に関する企業内研修の実施について開催を依頼

目的：県と包括連携協定を締結している企業の社員を対象とした研修を実施し、子世代（40、50代）への普及啓発を図る。

対象：包括連携協定締結企業の社員

方法：人生会議についての企業内研修を実施

成果：令和6年度はイオングループの退職者等の集まりである「高知イオンクラブ」で企業内研修を実施予定。

高知イオンクラブ

日程	2月21日（金）11時～12時 最大50名予定
講師	高知県医療ソーシャルワーカー協会 会長 中本 雅彦氏

2. 無関心期をターゲットにした広報

③人生会議 啓発資材配布状況（R7.1月末時点）

市町村や医療機関、介護施設などを通じてリーフレットを配布。

資材	配布部数	(印刷部数)	内訳	配布先	備考
元気編	9,139部	9,000部	2,684部	市町村等	14市町村
			2,600部	医療機関等	23医療機関、10介護施設
			1,611部	県民	講座、セミナー
			2,244部	その他	2職能団体、会議、研修会等
退院編	6,047部	6,000部	970部	市町村等	8市町村
			2,795部	医療機関等	21医療・10介護施設
			2,282部	その他	2職能団体、会議、研修会等

(参考)

資材	配布部数	(印刷部数)	内訳	配布先	備考
初級編	7,139 部	6,000 部	970 部	市町村等	9 市町村
			3,868 部	医療機関等	19 医療機関、10 介護施設
			465 部	県民	講座、セミナー
			1,836 部	その他	会議、研修会等

3. 医療・介護従事者への支援

・職能団体と連携した研修の実施

目的：職能団体の生涯教育研修会等で人生会議の研修を実施できないかアンケート調査を実施し、医療・介護従事者等へのリーフレットの活用を促す。

対象：11 団体

方法：令和 6 年 4 月下旬から 6 月にかけて、県内 11 の職能団体に対し、人生会議の普及啓発等に係るアンケート調査を実施

結果：配布数 11 団体、うち 2 団体 が研修会の開催可、8 団体 が検討すると回答
今後、調整のうえ研修会を開催予定

9 月に各団体へ令和 6 年度の研修会の開催依頼とともに、令和 7 年度にも研修会を開催していただくよう協力依頼を送付。

〈令和 6 年度実績〉

日程・開催地	主催者	テーマ・講師	受講対象
1 月 26 日（日） オンライン開催	高知県 薬剤師会	「ACP の普及に係る薬剤師への期待」 一般社団法人 高知県社会福祉士会 公文 理賀氏	薬剤師会会員
3 月 6 日（木） オンライン開催	高知県医療 ソーシャルワ ーカー協会	高知県立大学 看護学部 准教授 森下 幸子氏	高知県医療ソー シャルワーカー 協会会員

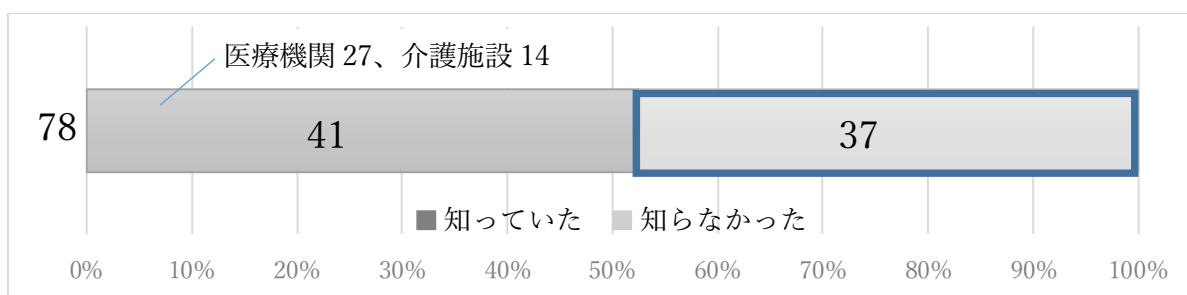
○県内研修について

県内における相談員研修の必要性について

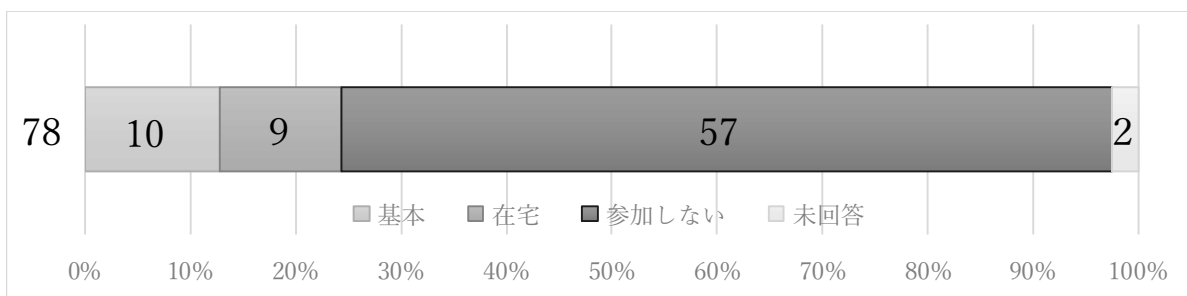
経緯：令和6年度第1回人生の最終段階における医療・ケア検討会議において、高知県独自で相談員研修会を開催をしてはどうかとの意見があり、需要がどれくらいあるのか調査をしてはとの意見があった。

厚労省主催の相談員研修会の案内が9月中旬にあったことから、研修の周知と併せて、医療機関（245箇所）・介護施設（348箇所）へアンケートを送付した。
回答数78（医療機関40、介護施設38）

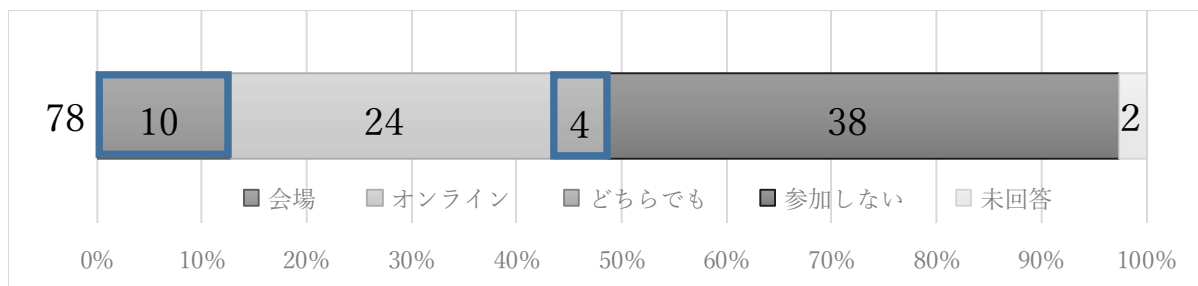
1. 厚労省主催の相談員研修会を知っていたか。



2. R6に厚労省の相談員研修会へ参加する職員はいるか。



3. R7に高知県で相談員研修会が開催される場合、参加する職員はいるか。



〈今後の方針〉

高知県での会場での研修を希望する施設は14団体で、そもそも厚労省の研修会を知らない施設が約半数を占めていることから、まずは職能団体と連携した周知を行うなど周知の方法を検討していく。

4. 人材育成

①指導者研修（※厚生労働省主催） 参加者合計0名

基本プログラム プログラム改変予定のため、指導者研修は次年度以降に開催予定

在宅医療・介護従事者版 参加者計0名

1回目：12月8日（日）

②相談員研修（※厚生労働省主催）（オンライン） 参加者合計11名

基本プログラム（多職種チーム）参加者計11名

1回目：11月4日（月）、2回目：11月24日（日）、3回目：12月8日（日）

在宅医療・介護従事者版（個人）参加者調査中

1回目：1月19日（日）、2回目：2月2日（日）、3回目：2月9日（日）

③指導者・相談員の活用

講師等として協力可能な方 50 名のうち、5 名に講演会講師として協力いただいた。

訪問看護ステーション ちかもり 看護師 山本 詩帆氏	県政出前講座 ・ 6 月 23 日（日）四万十町 ・ 11 月 28 日（木）四万十市
高知大学医学部附属病院 がん治療センター緩和ケアセンター 看護師 佐々木 牧子氏	県政出前講座 ・ 8 月 8 日（木）香美市 ・ 10 月 24 日（木）田野町
高知大学医学部附属病院 がん治療センター緩和ケアセンター がん看護専門看護師 三本 芳氏	市町村と連携した住民向け講座 ・ 10 月 16 日（水）津野町 ・ 12 月 5 日（木）本山町
高知大学医学部附属病院 がん治療センターがんゲノム医療センター 看護師 弘末 美佐氏	県政出前講座 ・ 11 月 24 日（日）四万十町
日本赤十字社 高知赤十字病院 副院長 田埜 和利氏	在宅医療連携研修事業 ・ 12 月 4 日（水）岡村病院

④医療従事者レベルアップ事業（県事業として各種団体に対して講師を派遣）※再掲

対象：医療介護従事者等

日程・開催地	主催者	テーマ・講師	受講対象
1 月 26 日（日） オンライン開催	高知県 薬剤師会	「ACP の普及に係る薬剤師への期待」 一般社団法人 高知県社会福祉士会 公文 理賀氏	薬剤師会会員
2 月 1 日（土） （四万十市）	幡多ソーシャル ワーカー 協議会	「土佐清水市での人生会議に関する取組 について」 特定非営利活動法人 ふくしねっと CoCo てらす 在宅支援相談室 コーディネーター 中山 良江氏	医療介護従事者

⑤在宅医療連携研修事業（県事業として医療機関に対して講師を派遣）

対象：高知県地域医療連携ネットワーク会会員

日程・開催地	主催者	テーマ・講師	受講対象	人数
12月4日（水） （高知市）	岡村病院	「アドバンスケアプランニング（ACP） ～その概念と実践～」 日本赤十字社 高知赤十字病院 副院長 田埜 和利氏	医師を含む 管理職	31名

⑥あったかふれあいセンターコーディネーター研修

対象：あったかふれあいセンターコーディネーター※

※あったかふれあいセンター事業において、関係機関のネットワークの構築、
地域での支え合いの仕組みづくりを推進するために必要な職員

在宅療養推進課からACPについて説明し、あったかふれあいセンターの利用者に対
するACP普及啓発の協力を依頼した。

日程・開催地	主催者	テーマ・講師	人数
9月11日（水） （オンライン）	高知県 （企画・運営 高知県 社会福祉協議会）	「人生会議（アドバンス・ケア・プランニ ング）について」 在宅療養推進課（小笠原）	31名

5. 県民啓発

①市町村と連携した住民向け講座の開催（各福祉保健所）

対象：一般住民

安芸福祉保健所	連携市町村：安芸市 日程：1月14日（火）13:30～14:30 講師：高知県立大学 看護学部 准教授 森下 幸子氏 参加人数：8名
中央東福祉保健所	連携市町村：本山町 開催時期：12月5日（木）10:00～12:00 講師：高知大学医学部附属病院 がん治療センター緩和ケアセンター 三本 芳氏 参加人数：16名
中央西福祉保健所	連携市町村：土佐市（2回） 開催時期：2月14日（金）、2月21日（金） ・ACP 導入の講義 講師：高知県立大学 看護学部 准教授 森下 幸子氏 ・ACP 動画視聴 安芸市「自然の看取り～在宅編～」
須崎福祉保健所	連携市町村：津野町 ①開催時期：10月16日（水）13:00～14:30 講師：高知大学医学部附属病院 がん治療センター緩和ケアセンター 三本 芳氏 参加人数：37名 ②開催時期：10月22日（火）13:30～14:30 講師：高知県社会福祉士会 公文 理賀氏 参加人数：17名 ③開催時期：11月8日（金）13:00～15:00 講師：高知県社会福祉士会 公文 理賀氏 参加人数：10名
幡多福祉保健所	連携市町村：四万十市、宿毛市、土佐清水市、黒潮町、大月町（開催）、三原村 開催時期：12月8日（日）13:30～15:30 ふれあい医療公開講座の中で開催（2講座中の1講座） ・広く住民向けに ACP について周知 ・リーフレット「人生会議（元気編）」を配布 ・人生会議の基本的な考え方や進め方について 等 講師：高知県社会福祉士会 公文 理賀氏 参加人数：57名

②県政出前講座

対象：一般住民

地域の団体が主催する研修に県から講師を派遣した。

No	日程・開催地	主催者	講師	人数
1	6月17日(月) (高知市)	高知医療生活協同組合 こだかさ支部 れいこ班	一般社団法人 高知県社会福祉士会 公文 理賀氏	20名
2	6月23日(日) (四万十町)	くぼかわボランティア 連絡協議会	訪問看護ステーション ちかもり 看護師 山本 詩帆氏	30名
3	8月8日(木) (香美市)	香美市社会福祉協議会 物部支所	高知大学医学部附属病院 がん治療センター緩和ケ アセンター 看護師 佐々木 牧子氏	13名
4	9月20日(金) (土佐清水市)	土佐清水市 老人クラブ連合会	高知県医療 ソーシャルワーカー協会 会長 中本 雅彦氏	194名
5	10月24日(木) (田野町)	田野町老人クラブ連合会 「千歳会」	高知大学医学部附属病院 がん治療センター緩和ケ アセンター 看護師 佐々木 牧子氏	23名
6	11月24日(日) (四万十町)	四万十市地域包括 支援センター	高知大学医学部附属病院 がん治療センターがんゲ ノム医療センター 看護師 弘末 美佐氏	29名
7	11月28日(木) (四万十市)	四万十市地域包括 支援センター	訪問看護ステーション ちかもり 看護師 山本 詩帆氏	16名
8	12月22日(日) (高知市)	高知県柔道整復師会	一般社団法人 高知県社会福祉士会 公文 理賀氏	27名

委員の活動

北村委員	・ 4/8(月)近森病院初期研修医向け ACP 講義 「ACP (Advance Care Planning) 人生会議について」 ・ 10/16(水)令和 6 年度近森看護学校 2 年次前期 成人看護援助論Ⅳ(終末期) 「人生会議 (ACP) とは・尊厳死等」 ・ 3/29(土)令和 6 年度日本尊厳死協会・四国支部 高知 講演会 医師と弁護士の講演から人生の最終段階について考える
伊与木委員	高知県医師会 ・ 11/16(土)高知県在宅医療推進フォーラム 「自分の思いどおりのしまい方」
北岡委員	・ 8/8(木)、1/29(水)高知大学医学部附属病院 院内 ACP 研修会の開催
公文委員	・ 11/14(木)高知福祉専門学校社会福祉学部 13 人「意思決定支援と ACP」 ・ 1/11(土)社会福祉士会基礎研修Ⅱ 7 人 「意思決定支援と ACP」 ・ 2/11(火)高知市社会福祉協議会 成年後見セミナー 約 80 人予定 「意思決定支援と ACP」
福田委員	高知県老人福祉施設協議会の活動 ・ 11/12(火)令和 6 年度老施協機能訓練指導員・介護職員・看護職員合同研修会にて ACP についての講演
森下委員	・ 7/26 (金) 第 34 回高知市西部地域医療カンファレンス 「ACP ってなんだろう」 講師 101 人 ・ 9/26(木)高知県中央西福祉保健所 令和 6 年度 ACP 研修会 (佐川町) 講師 約 40 人 ・ 10/14(月)日本在宅医療連合学会第 6 回地域フォーラム四国シンポジウム 「地域で展開する ACP：高知県の取り組み」シンポジスト ・ 11/16(土)高知県在宅医療推進フォーラム 特別講演 会田薫子先生 「ACP の考え方と実践」 シンポジウム 「自分の思い通りのしまい方」 座長 約 100 人 ・ 11/29 (金) 社会医療法人近森会近森病院 (看護部) ACP 研修会 講師 76 人 ・ 1/14 (火) 安芸あったかふれあいあいセンター介護教室 「人生会議」 講師 8 人 ・ 2/14(金)、2/21(金) 高知県中央西福祉保健所 土佐市 2 か所 講師

1 健康管理

人は年を取るとともに視覚や聴覚、味覚などに加えて、運動・認知機能等の低下が生じると言われています。

日常生活に支障が出る程度の機能低下を「フレイル」といい、進行すると転倒・骨折や誤えん性肺炎などを引き起こす原因となります。



<話しておくといふこと>

- ・フレイルは本人の努力次第で、予防が可能です
- ・取り組むポイントは3つ

- 散歩や体操など筋力を付ける「運動」
- タンパク質摂取や口腔ケアなどの「栄養」
- 趣味や仲間との交流などの「社会参加」



2 身の回りの整理

親はまだ心配していないかもしれませんが、自宅やお墓、田畑や預貯金などの財産、ペットの世話をどうするのかなどは、元気なうちから話し始めることが大切です。

早めに準備に取りかかることで、両親の気持ちが軽くなるとともに、いざという時にあなたも困らずに済みます。

<話しておくといふこと>

- ・不動産、預貯金などの場所や状況の確認
- ・相続についての希望や考え方
- ・大きな出費(例:手術や介護施設の費用)への対応方法 など



3 もしもの時のこと

高齢期になると、命に関わる病気やケガのリスクが高まります。

命の危険が迫った状態になると、約70%の方が医療やケアなどを自分で決めたり望みを人に伝えたりすることができなくなると言われています。

そこで大切なのが、「人生会議」です。

両親が元気なうちに、自身の希望する医療やケアについて、信頼できる家族と話し合い、共有しておくことが大切です。



<話しておくといふこと>

- ・両親が信頼できる人は誰か
- ・治る見込みがない場合や、自分の考えが伝えられなくなった時に望む治療方針と療養の場所

例えば、

- 最期まで家で過ごしたい
- 痛みや苦しみがないように治療してほしい
- 家族の経済的、身体的、精神的負担にならない程度の治療を受けたい



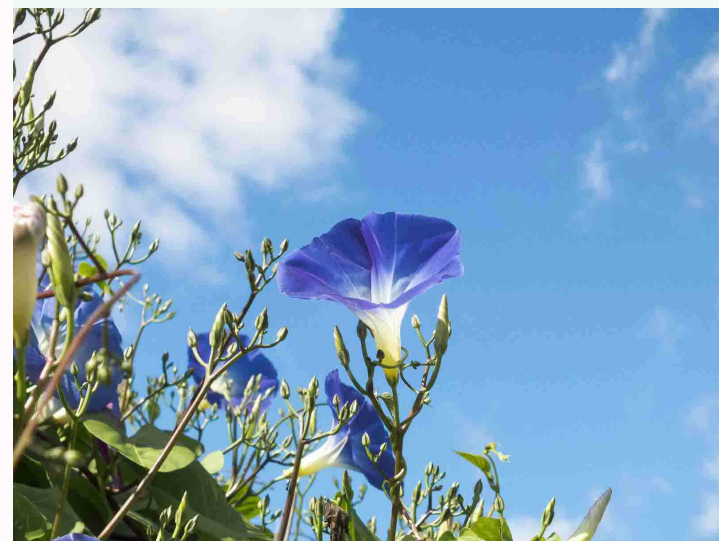
<発行>

高知県健康政策部在宅療養推進課
〒780-8570高知市丸の内1-2-20
TEL:088-823-9104
mail:131401@ken.pref.kochi.lg.jp



課のホームページ
もご覧ください

人生会議（親子編）



親が元気なうちに 話し合っておきたい 3つのポイント

将来のこと
いろいろ
心配だけど...

相談したい
ことも
多いけど...

何か
いい方法
ないかな？
わいから
かたがた
話したい



高知県健康政策部在宅療養推進課

これからのことについて、 親子で話せていますか？

両親が高齢になってくると、体調や将来のことなど、心配になることが増えますよね。

このリーフレットは、両親の将来について考えるきっかけとして、親子で話し合うための**3つのポイント**を紹介しています。

親子で一緒に話す時間を作ってみませんか？



1 健康管理

2 身の回りの整理

3 もしもの時のこと

まず、お互いの思いや価値観を共有するため、右側の「テーマ」について両親と話し合ってみませんか？

以下の「テーマ」について、親子で話し合っ
て、お互いの思いや価値観を共有してみましょう。



テーマ		両 親	あなた
1	今やってみたいこと(例:旅行、習い事など)		
2	生涯続けたいと思う趣味		
3	人生で最高の出来事		
4	今、心配していること		
5	支えになっている人やもの		
6	人生最後の食事として食べたいメニュー		

裏面に親子で話し合うための具体例があります。

親子で話し合えるその他の便利アイテムを紹介します！

<便利アイテム①>

高知県が開発したフレイル状態を簡単にチェックできるアプリ



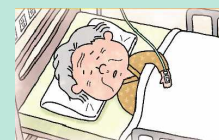
<便利アイテム②>

家じまいに向けて今からできることなどをまとめたエンディングノート形式の冊子



<便利アイテム③>

10分でわかる看取りのアニメーション動画
(安芸市在宅医療・介護連携推進プロジェクト会議作成)

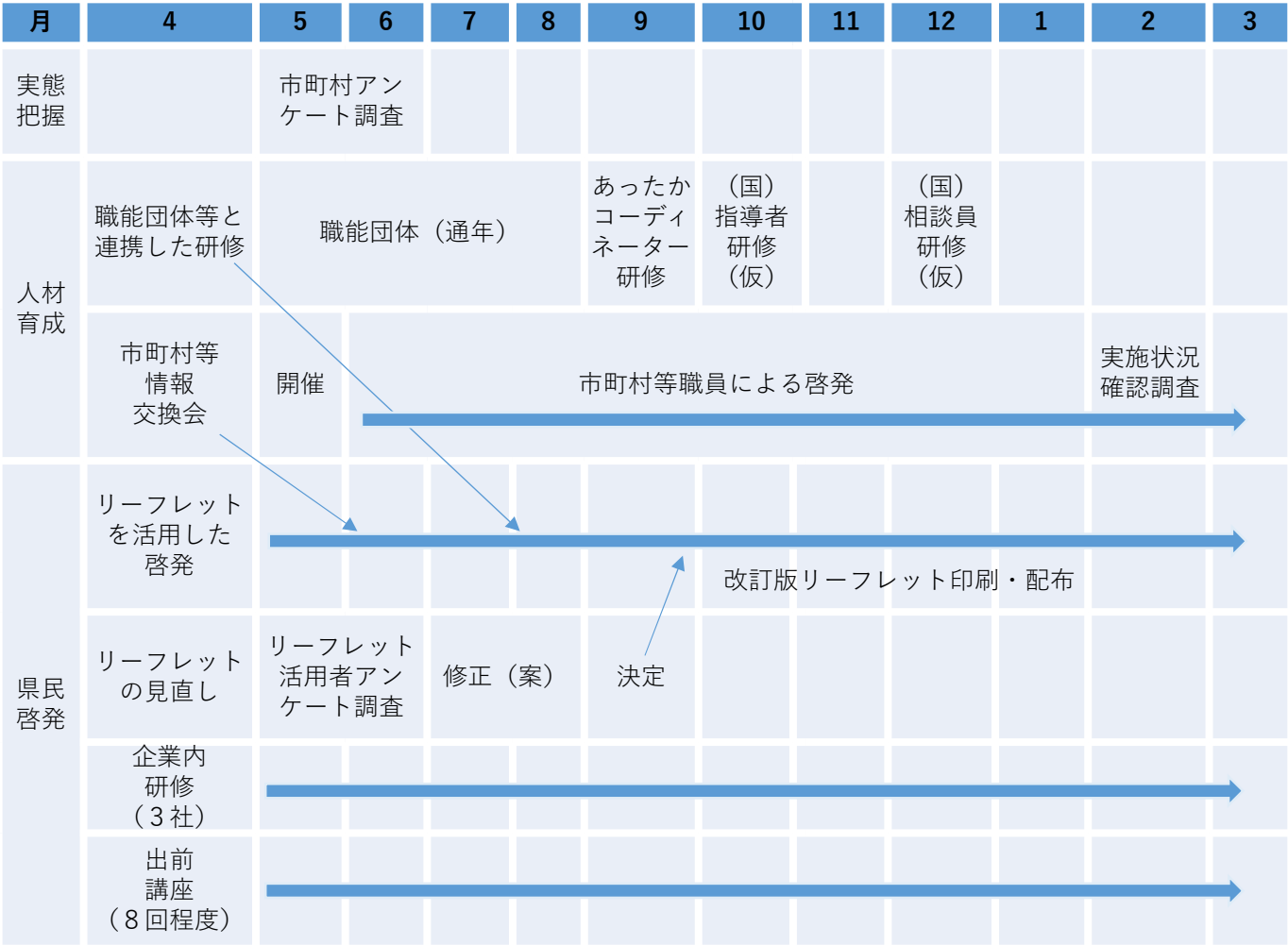


治療方針について主治医と家族で話し合い

令和 7 年度事業計画（案）

計画一覧

実態把握		・市町村アンケート調査⇒1回
人材育成	医療・介護従事者	・指導者研修（国）⇒1回（仮） ・相談員研修（国）⇒2回（仮） ・職能団体と連携した研修（在宅医療等連携研修事業）⇒5回
	市町村等	・あったかふれあいセンターコーディネーター研修（県）⇒1回 ・市町村等情報交換会⇒1回
県民啓発	無関心期	新 ・リーフレットの見直し ・リーフレット（元気編）：市町村、あったかふれあいセンター、いきいき百歳体操 新 ・リーフレット（退院編）：医療機関（連携室） ・リーフレット（親子編）：協会けんぽ等保険者と連携した啓発 ・住民向け講座⇒5回（保健所単位）
	関心期	子世代 ・企業内研修：3社
		高齢者 ・出前講座：8回程度



人生会議（ACP） 令和7年度事業計画（案）

1. 相談員の活用

・講師等リストの活用

令和5年度、令和6年度に作成した、厚生労働省主催の「患者の意向を尊重した意思決定のための研修会」受講者のうち講師として協力可能な方22名、ファシリテーターとして協力可能な方31名のリストを活用し、啓発活動を行う。

年度	R5	R6	R7（目標）
講師依頼人数	3名	5名	8名
講演回数	6回	8回	12回

2. 市町村での啓発活動の支援

・ACP市町村担当者等情報交換会：1回（ハイブリッド開催）

目的：市町村職員等自らがACP講師となれるようレベルアップを図る。

対象：市町村担当者、地域包括支援センター職員、市町村社会福祉協議会職員、
あったかふれあいセンター職員等

内容（案）：①県作成リーフレット「人生会議（親子編）」についての説明
②市町村の取組紹介（2市町村程度）
③「人生会議（親子編）」リーフレットを活用した模擬講座
④意見交換

3. 子世代（40、50代）に向けた普及啓発

・リーフレット（親子編）を活用した啓発

目的：両親のことが気になり出す子世代（40～50代）に向けたリーフレット「人生会議（親子編）」を活用した啓発を行う。

配布例：①元気編、退院編の配布先

市町村、地域包括支援センター、医療機関、介護施設、薬局、職能団体

②^新協会けんぽ等保険者と連携した啓発（被保険者へリーフレットを配布）など

・企業内研修の実施

目 的：県と包括連携協定を締結している企業の社員を対象とした研修を実施し、子世代（40～50代）への普及啓発を図る。

年度	R5	R6	R7（目標）
実施件数	1社 （リコージャパン 株式会社高知支社）	1社 （高知イオンクラブ）	3社

4. 無関心期・関心期をターゲットにした広報

・啓発リーフレットの見直し

目 的：リーフレット元気編、退院編、初級編の内容について、実際に活用されている方々へアンケートを実施し、内容の見直しを行う。

予 定：5月～ アンケート調査の実施

リーフレットを活用されている方（市町村担当者、リーフレット送付依頼のあった医療機関・介護施設等の方）からリーフレットを使用した感想や改善点などの意見を集める

7月～ アンケート調査の結果をもとに、リーフレット見直し案の作成

8月～ 委員の皆様に意見をいただく

9月～ 最終案の確定

10月～ 見直し後のリーフレット配布開始

5. 医療・介護従事者への支援

・職能団体と連携した研修の実施

職能団体の研修会と連携し、人生会議の講演とリーフレットの活用を促す。

※（再掲）県から各職能団体に対し、令和7年度の研修計画にあらかじめ人生会議の研修も組み込んでもらうよう令和6年9月に依頼済み。

6. 人材育成

①指導者研修、相談員研修（※厚生労働省主催）

- ・指導者研修 1回（仮）時期未定
- ・相談員研修 2回（仮）時期未定

②医療機関が行う研修への講師派遣

- ・在宅医療等連携研修事業 2回

③あったかふれあいセンターコーディネーター研修 1回

7. 県民啓発

①公開講座 5回（保健所単位）

目的：県内各地で県民を対象に人生会議の講座を行うことで啓発を行う。

対象：一般県民、参加人数 50名程度/回

開催：県内各地 5回

②県政出前講座 8回程度

目的：地域の集いの場に伺い、人生会議の出前講座を行うことで啓発を行う。

対象：一般県民、地域の医療・介護関係者 参加人数 20名程度/回

開催：県内各地

講師：講師等リストから選任